令和８年度 道志小中学校

道志小中学校公開研究会

令 和 8 年 1 0 月 2 3 日 （ 金 ）
13：00～13：50　授業実践　@小中各教室
14：00～16：40　全 体 会　@多目的ホール

全体会及び講演会次第

1　はじめのことば　…… 司　　会

2　研究の概要　…… 研 究 主 任

3　指導助言
⑴ 各種学力調査の結果を踏まえた授業づくりについて
山梨県総合教育センター　主幹・指導主事　櫻井順矢様

⑵ 認知能力検査 NINO の活用(指導の個性化・個別化等)について
応用教育研究所　研究部　係長　黒沢奈生子様

4　講演会
「学びを支える学級集団づくり　―ピアフィードバックの活用の視点から―」
早稲田大学・総合科学学術院 教授 河村茂雄 様

5 お礼のことば　…… 小学校校長

6 おわりのことば　…… 司　　会

◆ 終了後
本日の公開研究会のアンケートの回答をお願いします

道志小中学校　校内研究

令和８年度　道志小中学校研究主題

『個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する児童生徒を育成する』

～組織で QU(WEB)・NINO・学調等のエビデンスや ICT を活用した自己調整学習を通して～

提案授業の柱

1　個別最適な学びと協働的な学び(手段)によって主体性を高め、めあてを適える

◎ B 評価達成に向けて

◎ ICT の活用

① 個別最適な学びについて

・特性・学習進度・学習到達度等を自己調整し、学習内容の確実な定着を図る過程で**どのように必要に応じた重点的な指導や指導方法等の工夫**をしていたか【指導の個別化】

・興味関心・キャリア形成の方向性等を、自己調整し学習を深め、広げる過程において、**どのように一人一人に応じた学習活動や学習課題の提供**をしていたか【学習の個性化】

・児童生徒がどのような**場面**でどのような**目的**で ICT を活用しているか

② 協働的な学びについて

・一人一人のよい点・可能性を活かしながら、異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出す過程において、**どのように多様な他者と協働**していたか

・児童生徒がどのような**場面**でどのような**目的**で ICT を活用しているか

2　WEBQU 等を活用した安定と活性化

・児童生徒がどのような**場面**で**４つの視点を意識した言動**が見られたか

・教員が授業のどのような場面で**４つの視点**を意識して**指導と評価**をしていたか

４つの視点

① 充実感・満足感

自分と向き合い、挑戦しお互いを高め合うことで、充実感や満足感を得られていたか

② 承認感

意見を否定せず、協力しながら認め合うことで、承認感を得られていたか

③ 嫌なことがない・不安がない

相手を傷つけたり、悲しませたりするような言動はせず、嫌なことや不安のない状態であったか

④ 連帯する・孤立させない

仲間が失敗したときもプラスの発言をし、励まし合うことで、連帯し、孤立させない状態であったか